

8 番 通告3番、8番議員、細田勝治です。

通告に従いまして、一般質問いたします。

10月から小田原市と南足柄市の「(仮称) 県西地域の中心市のあり方に関する2市協議会」が始まりました。それに伴い、同協議会での議論の中で、大井町への影響について、町民の関心が徐々に高まりつつある中で、以前にこの近隣市町との連携について幅広い項目で一般質問がありましたが、再度町長のお考えをお伺いいたします。

この議会では、1、行財政基盤強化策としての両市の合併、2、権能強化策として、特別市から中核市への移行という、大都市制度の活用。3、中心市と近隣自治体との新たな広域連携体制の構築。以上を柱として、各項目について検討が進んでいきますが、次の3点について御質問いたします。

最初に、両市長の公式発表では、特に南足柄市の加藤市長の発表では、合併ありきではないと強く主張されています。合併が実現して、新市が中核市に移行した場合、大井町として既に両市との連携体制が確立している事項が多数あります。小田原市を中心とした2市5町による消防体制、広域消防体制、また、現在展開されている、新斎場整備等があります。南足柄市を中心とした、1市5町による、し尿処理、医療や介護、福祉分野の連携体制、そして新ごみ処理施設の広域化等があります。足柄上地区広域行政協議会等で、上郡5町のあり方について十分検討されているとは思いますが、両市の合併の影響により、これらの事案にどのような変化が出るとお考えでしょうか。

次に、先月2回目の協議会が行われましたが、この協議会が設定した3つのテーマのうち、両市の合併が最優先事項であることは明白です。しかし、我々大井町の住民にとって、両市の合併にも関心は高いものがありますが、3番目の近隣自治体との新たな広域連携体制の構築の検討、これが大きな関心事であることは間違いありません。しかし、この協議会には近隣自治体は一切参加しておりません。近隣自治体である上郡5町の立場はどのようになるのでしょうか。5町のうちの一方的な検討がなされる心配もありますが、少なくとも5町とは協議内容等の事前のヒアリングが設定されてもいいのではないかと考えます。町長はいかがお考えでしょうか。

3つ目は、協議会ではその進捗状況によって、当町を含めて近隣自治体への利害関係が生じた場合、両市は協議会が結論を出す前に、具体的な協議内容を丁寧に広報するとしています。しかし、合併という地方自治体の中で大きなテーマを推進するわけですから、町民と行政との情報

量の差は大きいものがあるはずですが。大井町ではホームページや広報誌等を通じて、多くの情報を町民に提供し、町民と町が情報を共有した上で、町の将来について幅広く議論を進めるべきだと考えます。町民への情報公開について、町ではいかがお考えでしょうか。

以上登壇での質問といたします。

町長 通告3番、細田勝治議員の小田原市、南足柄市の「(仮称) 県西地域の中心市のあり方に関する2市協議会」による本町への影響についてというような御質問で3点頂戴したわけでございます。

相対的にまずもってお答えをさせていただきわけでございますが、小田原市、南足柄市のこの協議でございますが、先般、議員おっしゃるように、10月21日に(仮称)小田原・南足柄中心市のあり方に関する任意協議会が発足したわけでございまして、約1年間にわたって協議が開始されたわけでございます。任意協議会は、人口減少、少子高齢化に対応するための安定的な行政サービスの提供の構築について協議をすることを目的とされておるわけでございます。行財政基盤強化としての合併の検討、権能強化策としての大都市制度の活用、中心市と周辺自治体との新たな広域連携体制の検討、さらには県西地域の中心市のあり方に関することの4項目について協議がなされたわけでございます。当然、中心市となるのは、2市8町の中心市になるということを前提に協議が開始されたというようなことでございますもので、我々にも大きくかわるところでございますし、またその中で、この残された10町をどうするかというようなことも責任を持って考えなければならない組織だというように私は認識しておるところでございます。

全国的に人口減少、また高齢化が進む中で、今後、基礎自治体として行財政基盤を整え、安定的に行政サービスを提供し、効率的、また効果的な施策展開ができるかということは、両市に限らず、本町におきましても大変大きな課題であるわけでございます、それぞれの自治体で自己完結型の単体経営を実施していくには限界がきている状況にあるというような、私自身も認識を持っているところでございます。合併により行財政基盤は強固なものにし、安定的に行政サービスを提供していくという方法も一つとして考えられるわけでございますが、自治体間で連携や交流、相互に補完するような連携経営という発想を強めていく必要があると感じておるところでございます。

市町がそれぞれの強みを生かし、住みたい、また住み続けたいと思えるような地域づくりを推進していく、そのような広域連携のあり方につ

いて改めて検討する時期に来ているのではなかろうかと考えておるところでございます。

広域連携といたしましては、これまでも1市5町、また2市8町という枠組みで一部事務組合や事務の委託などさまざまな分野で事業を進めてまいりましたが、足柄上郡5町では、この小田原市と南足柄市の2市における中心市のあり方に関する任意協議会の発足に合わせまして、県西地域の広域連携などについて議論を進めるとともに、中心市と周辺自治体との新たな広域連携体制、いわゆる連携中枢都市圏構想についても、足柄上郡5町が共同歩調で対応し、調査・研究を進めていく必要があることから、足柄上郡5町の副町長・広域担当課長会議を設置いたしまして、対応策の検討を進めさせていただいているところでございます。

足柄上郡5町副町長・広域担当課長会議における今後の調査研究の方向性といたしましては、一つ目といたしまして、小田原市と南足柄市の2市を含む広域連携への影響について検証してくということとなっております。例えば、足柄上衛生組合やごみ処理広域化、斎場の広域化などをはじめとして、それ以外の広域連携への影響や対応策について検討しているものでございます。

2つ目といたしましては、各町の総合戦略に共通する重点的な取り組みでございます、「しごとづくり」や「広域観光」、「定住促進」などについての広域連携について検討し、あわせて、税務事務や水道事務の共同化や消耗品の共同調達など、事務の効率化を図るための広域連携についても検討してまいろうと進めておるところです。

3つ目といたしましては、2市における協議の状況等を見ながら、足柄上郡5町が中心市となる連携中枢都市と連携する場合の影響などについて、先進事例等を調査しているということとしております。

いずれにいたしましても、2市における協議結果を待つのではなく、同時進行という形をとりながら、足柄上郡5町におきましても新たな広域連携のあり方について調査・研究をしていくこととしております。

2市協議に対する足柄上郡5町の取り組み及び対応策についてお伝えした上で、3点の質問にお答えさせていただくわけでございますが、答弁の関係上、2点目の質問からまずもってお答えをさせていただきます。

協議会には「周辺自治体」は一切参加してございませんが、事前に協議内容が打ち合わせされるのかとの質問でございますが、11月28日に開催されました県西地域2市8町で構成される神奈川県西部広域行政協議会において、2市協議における「中心市と周辺自治体との新たな広域連

携体制」に係る検討方針として、2市と県西地域8町との協議方法が示されたところでございます。

検討事項については、一つといたしまして、広域連携制度の現状把握。2点目としまして、他圏域における状況把握、3点目としまして、連携中枢都市圏制度を含めた各種制度の活用可能性の検討としており、2市協議での検討結果は神奈川県西部広域行政協議会8町に情報提供がされ、2市での検討を踏まえ、神奈川県西部広域行政協議会8町との意見交換、さらに中心市及び8町の広域連携の具体の事業について、神奈川県西部広域行政協議会に組織する特定課題検討部会において整理されることとしております。

説明の中でも、2市と8町との間の協議を位置付けているとのことでしたが、本町としても2市協議の検討状況を慎重に注視してまいりたいとそんな考えでございます。

続きまして、1点目の御質問でございますが、合併が実現し、中核市に移行した場合、本町と両市との連携が確立した部門はどのように変動するのかとの御質問でございますが、現在、小田原市、南足柄市との広域連携より取り組みを進めている事業は、費用負担の有無にかかわらず、32事業となります。そのうち、足柄上地区1市5町が構成団体となっている事業が22事業あり、2市の合併により特に影響が大きいと判断される広域連携事業として、し尿処理、介護認定審査会、休日急患診療所事業を所管する足柄上衛生組合でございます。また、あしがら上地区資源循環型処理施設整備調整会議、また、小田原市斎場事務広域化協議会、小田原市への消防事務の委託等が具体的に挙げられるわけでございます。

現時点においては、今後のあり方における2市からの協議はなく、今後どの様に変動するのか把握できていない状況にありますが、11月28日に開催された神奈川県西部広域行政協議会において、足柄上郡町村会長であります松田本山町長より、1市5町の枠組みで共同処理している事務事業及び足柄上地区ごみ処理広域化のように1市5町の枠組みで共同処理に向けて調整を進めている事務事業について、仮に2市が合併した場合にどのように取り扱うのか、早目の協議調整について依頼を行ったところでございます。ちなみに、下郡3町も同席でございましたが、下郡からはそのような御意見が出ていなかったというような状況でございますが、上郡としてはそのような準備をしておりましたもので、そんなことを申し入れさせていただいたところでございます。

回答といたしましては、2市協議にあたり、重要課題として位置付けているとともに2市の事務事業の調整の中で、十分に検討するのとの回

答を得たところでございます。しかしながら、5町としても重要な課題であることから、足柄上郡5町副町長・広域担当課長会議において、広域連携への影響や対応策について十分に検討いたし、2市との協議にあたり準備していきたい、そんな考えでございます。

3点目の御質問の、両市の協議会の進捗状況やそれに伴う当町への利害関係が生じた場合、町民にどのように情報を開示するのかとの質問についてお答えするわけでございますが、両市の協議会の進捗状況につきましては、動きが生じた時点で、あるいは一定の区切りの時点で、その都度議会の皆様方に報告をまずさせていただきたいというような考えでございます。

また、当町へ利害関係が生じた場合には、広報等により町民の皆様情報を提供をさせてもらうとともに、必要に応じて住民説明会等の開催も考えていかなければならないというような考えでございます。

2市における協議に対しましては、しっかりと注視した中で、冷静に対処することが肝要であるというような考えでございますし、私ども上郡5町で、圏域のあり方などについてもしっかりと議論を進め、共通理解と共通認識のもと、中心市に対する連携自治体として共同歩調により加わることができればよいのではないかと考えるところでございます。

これまで培ってきた広域連携をベースにいたしまして、圏域全体の魅力ある地域づくりという観点で、周辺町としての考えを示し、2市の協議内容に盛り込めるよう協議・調整を図ってまいりたいと考えるところでございます。

2市の合併も含めて、大変微妙なことでございますので、静観する部分と、私どもの利害に関することについては、意思をびしっと述べていく必要があるのじやなかろうかなというように思うわけでございますが、下郡3町と上郡5町とでは少しニュアンスが違うのかなというような思いでございます。下郡のほうは余り危機感的なものはお持ちじゃないようでございますが、我々5町としては、危機感を持った中で沈着冷静に対応していく必要があるというような考えでございます。

先般も議会の皆さん方に、全協等で報告させていただいたわけでございますが、これからも期を得てそのような対応を図ってまいりたいと考えておるところでございます。

時期にあった御質問を頂戴いたしましたことを心から感謝を申し上げて、答弁とさせていただきます。

8 番 それでは、再質問に移らせていただきます。

ただいま町長から全般的な内容に触れて御答弁いただきました。質問によって、一部ダブるようなところがあるかなと思われませんが、一つ御容赦いただいて、御答弁いただきたいなとこんなふうに思います。

ここに県西地域の中心市のあり方研究報告書というのがあります。これは27年1月に小田原市企画政策課と南足柄市の企画課が出したものであることですね、内容はかなり詳細に両市のいろいろな比較が出ております、グラフも含めて詳細になっているわけですが、このページを開いてみますと、いわゆる今現在、両市が合併しなかった場合、しない場合のデメリット。そしてもう一方は、合併した後のメリット。これが強調されているなという感じがいたします。これを見てみますと、合併することによって、両市が大きくなる、いわゆる中核市への移行という大きな命題を抱えた中での報告書かなと、こんなふうに思われます。いわゆるスケールメリットというんですかね、これを使って住民サービス、安定した住民サービスを提供していこうと、こういう内容かなと思われま

す。そんな中で町長に伺いたいんですが、一般的に両市の合併したときのメリット、あるいはデメリット、これを町長どういうふうにお考えになってらっしゃるのかちょっとお伺いしたいと思います。

町長 大変難しい質問でございまして、メリット、デメリットはそう簡単に出てこないかなというように思いますし、私は第三者の立場でメリット、デメリットを発言するのは非常にこういう立場でございまして慎重にしなければならないわけですが、いろんな取り巻き、行政には取り巻きの団体があります。我々も足柄上郡医師会だとか、足柄上歯科医師会にお願いしている。またこの町では4町で商工会を運営していたりというようなことございまして、これ、こういうような団体がどういふふうに理解されるのかというようなことを、具体的に言えば、医師会の皆さんとか、商工会の皆さんあたりはまだまだ合併の関心度が、南足柄の中でも低い状況にありますもので、このまますぐに何年後に合併といったときに、場合によっては、予防接種等、片っぱは医師会に頼んだり、片っぱは足柄上郡の医師会に頼まなきゃ同じ自治体できなくなってしまうたり。小田原市さんの場合は、基本的には商工会議所がおりなんですが、昭和40年代に合併した橘町の商工会が現存しているというような状況です。商工会と商工会議所は別途な組織であります、商工団体は1自治体に少なくとも一つ置くということで、そういう点からいきますと、小田原商工会議所があつて、橘町商工会があるというのは、少し異例の形であろうかと思えます。もし南足柄市さんが合併されたり

しますと、小田原市にまた一つ商工会ができてしまうのかなと、こんなことも想定されるわけでございます。ですから、その辺のところも、いわゆる土台をきちっとした地ならしができないと合併というのは容易にならないんじゃないかなろうかと、私は考えておるわけでございますが、足柄上郡5町の場合は、過去からそういうような経緯の中で、一つになるというような経緯できておりますもので、南足柄市さんの商工会も、足柄商工会から分かれて南足柄市商工会ができたという経緯があります。山北町さんだけは、昔から山北町商工会として独立した組織であるわけでございます。こういう団体の協力を得た中で、商工行政だとか、医療行政だとかというものを私たちやっております。そういうような中では、そういう組織の理解をいただけずにやりますと、非常に行政上もいろんな負担が多くなっていくんじゃないかなろうかなというようなことを、私自身はちょっと見ておりますけども、この辺のところは、これから協議に入られましたもんで、(反訳不能) 合併に向けて努力されるのかなという、そんな思いでございます。

8 番 　　なかなか町長としてお答えにくいような質問で申しわけございません。

次に、ただいま冒頭の答弁の中でお話になってられました、足柄上郡5町における広域連携に関する調査・研究についてと、こういうペーパーが先月の全協の中でお配りいただきました。私としては、質問書を出した翌日に届きましたので、やばいと思ったんですけどね。それはそれとして、内容を確認させていただきました。

この中で1点お伺いしたいんですが、2月2日に小田原市と南足柄市長が記者会見をされました。2市協議会を発足するぞということで、記者会見をされましたけども、その後、5町の副議長及び広域担当課長、この会議が11月までに3回行われております。それで、広域担当課長の会議が1回行われました。今後のこの会議の方向性、これはただいま町長が御答弁なさったような内容で十分わかるんですが、この11月までに行われた4回の会議の内容、これはどのようなものだったのかなと、こんなふうに思います。よろしくお答えください。

企画財政課長　　まず、各市町村の副町長と広域担当課長会議ということでございます。最初の2月の会議におきましては、まず小田原市長と南足柄市長の会見があったということで、非常に大きな内容でございましたので、まずはとにかく5町で集まる必要があるというところで集まって、情報交換をしたというところでございます。

それから4月になりまして、今度は実際にどのような方向で協議をしていく必要があるかというところについて検討させていただきました。

数回を経た中で最終的には11月2日に5町広域担当課長会議、それから12月2日、直近ですけれども、そこでも5町企画課長会議を開催いたしました。その場で調査・研究してきた中での中間報告という形で出させていただいたものでございます。

今後の進め方というところでございますけれども、この5町における広域連携に関する調査・研究についてというところにも記載がございますけれども、まず大きく3点ございまして、まず一つ目、これが一番の喫緊の課題ということになりますけれども、今共同処理をしている一部事務組合、特に足柄上衛生組合になるんでしょうか、その辺については、至急この副町長・課長会議の中で、今年度中にでも方向性、あるいは選択、その辺を示していく必要があるだろうというふうに考えてございます。

2市の協議の予定の中で、5月には広域連携に関する協議がなされるという予定であると聞いてございますので、それまでの間には5町から、向こうからのアプローチを待つのではなく、5町のほうから会議した内容、選択肢、あるいは方向性、その辺をもった中でこちらからアプローチをしていきたいというふうに考えております。

2つ目につきましては、これは既に広域連携をしているパターンですね。共同処理以外で広域連携を現在しているパターン、それについても、これはし尿処理、その辺に比べると喫緊ではないかもしれませんが、それに次ぐスピードで対応していかなければならない事案だというふうに考えてございます。

もう一つが、一番後になりますけれども、連携中枢都市圏構想、その中で新たに広域連携をしていくもの、具体的に言うと、連携協約を結びながら2市との協約を結んだ中での広域連携をしていくもの。その3つに分けた中で、今後3月までに結論を出していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

8 番 ありがとうございます。

ただ今の3件についての協議内容ですが、一つだけお伺いしておきます。喫緊の問題、1番目に取り上げられた問題ですね、これについてももう少し具体的な取り組み内容について、喫緊といわれる割には少し時間をかけておられるのかなと思うのですが、この内容についても一度お伺いいたします。

企画財政課長 この共同処理をやっているものについては、確かに喫緊の課題であるというようにとらえてございます。まずはここについて協議していく必



要があるというように思っているところでございます。その2市の協議の中におきましても、その共同処理をしているもの、一部事務組合に関するもの、これについては非常に重要な課題であるというようにされてございまして、ランクAとして位置付けられてございまして、一番最初に、あるいは協議会最高の機関で協議されていくというふうにされてございます。

そんな討論がございまして、これについては、足柄上郡5町におきましても協議を早く進めなければいけないというところでございます。その具体的な協議の進め方でございますけれども、なかなか企画サイドだけでこれを協議していくというのは非常に厳しい問題がございまして、現在の予定といたしましては、12月中にでも企画担当課長とあるいは環境衛生の担当課長、そちらのほうで部会のような形のものをつくりまして、検討を進めていきたいというふうに考えてございます。

具体的に今考えられる中で、どんなことが考えられるのかと申しますと、基本的には3つ考えられるのかなというふうに思っております。一つ目としては、まず合併の前に当該組合を解散して合併の日に全ての事務、財産を新市に引き継ぐという方法。それから2つ目として、合併の前をもって当該組合を脱退する。3つ目として、その合併の前をもって当該組合を脱退して、新たに新市において合併の日に当該組合に加入する。これが基本としての3点というふうにされてございますけれども、これが基本ということで、それ以外にもあるいは方法があるかもしれないというところもございまして、それにつきましては、その企画担当課長会議、メインとしては環境衛生の担当課長になると思っておりますけれども、そんな中で協議をしていきたいというふうに考えております。

8 番 なかなか難しい問題であり、かつ重要な、町民の毎日の生活の中での分だけに重要な部分だろうなと思われま。スムーズに展開していただくようによろしく願います。

続いて、今お話したこの副町長及び広域担当課長による調査・研究というこういう会議体があるわけですが、この2市協議会に対応して、こういう会議体が設立したということになるわけですが、この5町が共同して歩調を進めていくエンジンになるような大きなウエイトを占めているかと思われまけれども、いわゆる5町の首長さんによる会議体、この2市協議会に並行して行われるような、首長さんによる会議体、これはお考えになってらっしゃるのかどうか、お伺いいたします。

町 長 今、この足柄上郡5町副町長・広域担当課長会議を設けるに当たっては、まずは5町の首長で協議した中でこういう組織を立ち上げたわけで

ございます。上郡5町では定例的に町村会をもっておりますので、その中で話し合いをさせていただきます。定例町村会の前には、南足柄市長さんをお招きして、1市5町の首長会議というような形でも設けさせていただいているわけでございます。そんな中でいろいろ議論を重ねていこうというような考えでございますし、上郡5町の首長が、まず小田原市さんの去年の正月早々、5町に連絡がありまして、そしてすぐ緊急的に大井町役場へ皆さんお集まりいただいて、5町の首長で協議をさせていただいて、こういうような形になってきたわけでございます。

我々としては、2市の合併というような一つの新しい枠組みもありますので、そこを合併を阻害するようなことになってはならない、しかしながら、我々のきちっとした広域連携の負担の問題だとか、そういうものに対してはきちっと対応をとってほしいというようなことでございます。

先ほど課長のほうから答弁しましたが、いろんな組合に入っておりますと、脱退金というようなものも、これ現にあるところが試算も出てくるんです。南足柄市さんがこの組合を脱退すれば、どのぐらい何億ぐらいの請求がいくというような、そういう組織もあるわけございまして、その辺のところは当然過去の組合からの恩恵を受けたものに対してペナルティーを払うというようなこともありますから、当然その辺のところも試算された中で、このような動きをされているというようなことじゃなかろうかなと思います。

我々としては、5町は5町としてまとまっていく。しかしながら、これから新しい枠組みの中で、5町それぞれがというような考え方じゃあ無理じゃなかろうかと、5町が将来は合併するのか、よその自治体にいろんなことで物を頼みながらそちらへ向いて広域行政を新たに展開するものか。そんなことをきちっと考えていく必要があるんじゃないかなというようなことは、私の口で申し上げさせていただき、安易に5町が肩を寄せ合うだけじゃあこの問題は解決できない問題だと。それぞれが腹をくくらなければできない課題じゃなかろうかというようなことも申し上げさせていただいた中で、こういう組織をつくりました。2市の合併に対してくさびを打つことなく、我々は静かに見守りながら、そして我々の主張はきちっと通して、5町なりが、2市5町で進めてきた共同事務等については、きちっとしたものを提示していただく、そんな姿勢のもとにこの組織をつくらせていただきました。そんな中で強く主張してまいりたいと、そんな考えでございます。

8 番 5町のまとまりということ、また5町の共同歩調ということの大切さを今、町長にお話しいただきました。

この5町のまとまりということでお話ししますと、2市、小田原市と南足柄市との大きな差というのは、この5町にはあるんです。例えば、この人口減だとか、少子高齢化というようなところから税収の減だとか、あるいは扶助費の増大とか、こういう問題もひとつ絡んでくるかなと思います。

例えば、一つの事例で言いますと、大井町の少子高齢化というのは、ちょっと前の話で1月現在の話ですが、29%、30%っていないんですね。ところが、南足柄市では既に30%を超えているというような高齢化のデータもあります。これ26年度の決算カードのデータで恐縮なんですけど、2市の扶助費の平均が23.2%、それに対して5町平均が14.3%なんです。9ポイントも違います。この状況でどういう形で広域連携をつくっていくか、なかなか難しい問題かなと、このように思われます。

そんなところで、今後、今後ですよ。広域連携の中で2市とのいろんな協議が5町の中で始まるかと思うんですが、こういう大きなデータの違い、こういったものを十分5町間で検討していただければなど、こんなふうに思いますがいかがでございましょう。

企画財政課長 この連携中枢都市圏構想というのがございまして、それは中心市と周辺の市町、ここでいいますと町になりますか、それとの連携協約を結んでいくということになります。その連携協約というものは、周辺の町が固まった中で中心市と合体して連携協約を結ぶということではなくて、連携協約そのものは、中心市と周りの一つの町、それが単体ごとに協約を結んでいくということになります。そんな中でも足柄上郡としては、共同歩調はとれるところはできる限りとったほうがいだろうというふうに考えてございまして、それに加えて、連携協約につきましても、事務事業だけでなく、政策的な面についても連携協約を結ぶことができるというふうにされてございます。そんな中で基本的には中心市対一つの町というところの連携協約でございまして、その中心市とその周りの連携する町、それがお互いにその効率化が図れるものか、そういったものは一つ一つ吟味しながら検討していく必要があるというふうに考えてございます。

具体的にその連携協約に向けての動きとなるのは、早くても1年を過ぎた後、連携協約に係る新しい広域連携については、早くても1年後、2市との、2市の中心市の最終的な決定がなされた後との動きになります。

す。当然、それに向けての準備というのは必要だと思いますけども、そのことにつきまして検討していければなと考えます。

以上です。

8 番 2市とのいろんな連携について、検討していただいでいくということが確認できました。

ことしの5月に、南足柄市を含めて1市5町で、足柄ローカルブランディング推進協議会というのができました。これは会長が間宮町長です。大井町の企画財政課に本部があるということですね。ということは、このブランディング推進協議会というのは、いわゆる観光事業、観光振興を図るということで、3,600万円ほどの地方創生加速化交付金もう決まっているわけですけども、こういうぐあいに、大井町でこういう組織が立ち上がっているということは、基本的には上郡5町のリーダーシップを大井町がとれということにつながるんじゃないかなと。ましてや間宮町長は9年前の2市8町による県西の合併検討会の際の唯一の経験者でもあるわけですね。こんなところからきて大井町としてリーダーをとれと、なおかつその中で間宮町長がリーダーシップをとって、5町をまとめ上げろというような一つの投げかけでもあるのかなと、こんなふうに思います。これに対して町長のお考えを伺いたいと思います。お願いします。

町 長 なかなか答えにくい御質問でございますけども。ローカルブランディングをスタートさせるきっかけは、神奈川県西部協議会、昔の2市8町広域市町村圏協議会の制度もありまして、神奈川県西部広域行政協議会、通称西部協というのが立ち上がったわけです。そういう観点から、1市5町で長年やってきました足柄上地区広域行政協議会は、必要がないもんじゃないだろうかというような皆さん方、認識になられたんですね。誰もそれを再開することがなかったわけでもございまして、その責任者は一人は南足柄市長さんで、一人は上郡の町村会長がやるというようなことでもございました。

私も既に町村会長も終わって、余り発言しないほうがいいなと思っておったんですが、今後の広域行政、広域連携をしていく上において、5町がまとまらなければ1市5町もまとまっていかなければならないんじゃないだろうか、というようなことが重要であるというような認識のもとに、これを数年ぶりに再会させていただきました。そこで1年間協議をしたわけでもございますが、何らかの事業を展開してほしいと、特にこの近隣の町から観光行政をもう少し見直すことができりゃいいんじゃないかと、そしてこのインバウンドだという時代に外国人も含めた中

で観光客をふやしていくにはどうしたらいいんだというような議論が一部で出てきましたもので、そういう課題をひとつまとめ上げようというようなことで、しましたところ、大井町がその広域行政協議会の口火を切って1市5町の広域連携の座長だったからというようなことで、私にお鉢がまわってきてやったわけでございます。何はともあれ、私は5町なり、1市5町、特にこの1市5町の枠組みを大事にしていく必要があるというような認識を私自身は持っておりますもので、そういうような中でいろんなことを連携を模索していく必要があるというような思いでございます。

今後も、2市に対しましては冷静に見て、5町がまとまっているいろんな展開をし、この圏域の、過去に考えられていた1市5町の6団体の合併を視野に入れた組織づくりをされていく。そんなことも視野に入れた中で取り組んでいかなければならない、そんな認識でございます。

議

長 以上で8番議員、細田勝治君の一般質問を終わります。